

手賀沼における侵略的外来水生植物 ナガエツルノゲイトウとオオバナミズキンバイの拮抗

竹内順子¹⁾, 林 紀男²⁾, 小倉久子¹⁾, 高橋 莉³⁾

1)美しい手賀沼を愛する市民の連合会, 2)千葉県立中央博物館, 3)いであ株式会社

千葉県北西部に位置する手賀沼流域では、侵略的外来水生植物のナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）およびオオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）が異常繁茂し、群落規模を年々拡大している。沼や河川の水際から浮島状の群落を水面上に展開し、多くの地点で混生群落を形成しながら生息空間を巡り拮抗状態にある。

手賀沼西部の大堀川河口部の柏市呼塚新田地先（北柏ふるさと公園前）に広がるナガエとオオバナの混生群落において、ライントランセクト法を用いた両種の植生状況調査を実施した。岸から沖に向か 30m の調査ラインを設定し、2m 間隔で測点を設け、各測点の群落表層部および底層の両種の生育度合いを比較した。測点の中にはナガエとオオバナが純群落として場を占有している例もあったが、両種混在する測点においてそれぞれの占有度比率を比較した結果、群落表層部ではオオバナが優勢の測点が全体の 6 割近くと過半数を占めていること、底層部では逆にナガエの匍匐枝の占有度が高い測点が全体の 7 割近くと、勢力構造に上下差が生じていることが明らかとなった。ナガエ群落にオオバナが覆いかぶさるように群落を展開し、表層はオオバナ優勢とみられる場でも、底層ではナガエが匍匐枝を充実させている地点が多いことが確認できた。群落生育地の湿潤状況、群落全体の高さといった複数要因を交え、次年度以降に多変量解析による検証を継続実施する予定である。

※竹内順子・林 紀男・小倉久子・高橋 莉. 2021. 手賀沼における侵略的外来水生植物ナガエツルノゲイトウとオオバナミズキンバイの拮抗. 千葉生物誌. 71(2): 98.
より引用転載